

# 国際交流基金助成事業報告書

薬学部 3年次生 岡田櫻良

## 1. はじめに

春休みに引き続き、あいにくの時勢で夏休みも気軽にどこかに旅立つこともできなかったため、英語のオンライン留学に参加することにいたしました。「日本人だけではないグループワーク」というのが決め手で、ネイティブでない人とどのようにコミュニケーションをとるかも課題にしようと決めて臨みました。

## 2. 授業

プレ課題、Class、ポスト課題の順で行われました。授業前に授業の内容について考えておくプレ課題、グループワークの多い授業、ポスト課題でも居残りをしてメンバーと議題について話し合いました。

ただ先生のおっしゃった課題内容が複雑・または大変で、英語のリスニング力の足りなさを全員で苦笑いしながらなんとか課題をやっていきました。よくある英語の授業のように簡単な概念について答えさせるというよりは、自身の思考や思想について深く答えさせるものが多かったように思います。

## 3. 見つけた欠点

予想はしていましたが、英語を母国語としない方との英語での意思疎通は、非常に体力が要りました。受験で覚えた英単語と、その時使っていた教材で語彙を増やしているので語彙に偏りがあり、通じない・その場面においてはあまり適切ではないといったことが多くありました。書き言葉の文法の方がなじみ深いので、会話がなかなか難しかったです。

面白かったのは、ブラジルの方に「(ブラジル料理の) シュラスコは食べないのですか？」と質問すると、「それは知らない」と言われ、びっくりして料理の説明をすると、「ああ、シュハッスコね」とそこでようやく得心顔をなさいました。外国語を英語化し、日本語のカタカナにしたものしかしないと、こんな弊害があるのかと非常に興味深く、ちゃんとその人の母国のことは話す前に調べねばならないと反省しました。

## 4. 復習

レッスンが終わるたびに、今回のオンライン留学で初めて知った言い回しと単語をメモしており、次回の授業でいつどのように使うかを考えました。使い道や使用計画を立てる

というのは非常に有効で、「いまだ！」とおもって使って、通じたり褒められたりすると、より一層楽しい気持ちになれましたし、感情とともに記憶されるので、とても覚えやすかったです。

## 5. 今後

実践的語彙や文法の習得をするため、オンラインでの英会話アプリを購入して、「覚える」→「実践」の流れを日常に組み込むべく努力しています。文法書も刷新し、脳内で日常会話を英語に翻訳する訓練を行ったり、医学部の方々とも行っている英語の自主学習会の幹事として、実践形式の訓練ができる機会を設けたりしました。

様々なことのブースターになってくれる素晴らしい経験でした。

新型コロナウイルス感染症が収束次第、タイや別の国に行き、もっともっと英語を使いたいです。